



其徴ハ一千六百二十四年ニ蘭人ホルモサ島ニ
 則チ支那人ノ植民ハ日本人ヨリ早カリシナリ
 欲セシハ一千六百二十年ノ頃ナリトゾ然レバ
 ト云フ而シテ日本人ノ始メテ此島ニ植民セント
 此島ハ一千四百三十年ニ支那人初テ発見セシ
 ニ屬スト雖モ支那ノ所轄ハ其西海岸而已蓋シ
 テ支那人之レヲ臺灣ト曰フ此島福建ノ一部分
 也

ホルモサ記

六月三日「シヤパン」ヘラルド抄譯

大正十一年四月
 大隈侯爵郵寄贈

四葉

第百其ノ七号

114
 A 150



其西海岸ニ一城ヲ築キ之ヲ「ゼーランジヤ」
城ト曰フ此時支那人多人数ニ此經營ヲ妨ク
ル十分ノカラアリシトナリ却説蘭人此島ニ来
リモヨリ島人甚ダ白人ヲ愛シ是レヨリ文化開
ケ宗門ノ教ヘヲ受クルニ到リ此島和蘭國東亞
西亞社中最盛ノ地ノ一トナリ茲ニ船舶輻湊ニ
此時微カニ知ラレタル遠亞西亞ニテ廣ク貿易
行ナハレント為セシ

此時頃ニ清朝支那ヲ領セシガコセンヤ
其命ニ從ハザルヲ以テ支那地ヲ逐ハレ

此島ニ來テ據有セントス實ニ一千六百五十二
年バタビヤニ在留ノ蘭人即チ此事ヲ聞
傳ヘシガ此時支那人蘭人ニ好言ヲ送テコセン
ヤノ企ヲ破ラントス是ニ於テ一度ハハニテ
ラン植民ヲ保護セン為メニ軍艦ヲバタビヤヨ
リ發セシガ又私ニ已レヲ富サンコトヲ圖リ途中
ヨリ方向ヲ轉シマコトニ行カントセシニ臺灣
ノ今此企ニ與ミセザルヲ以テ竟ニ彼レト爭論
ヲ生ジホルモサニ住居スル已ト同國人ノ願
ヲ願ミズバタビヤニ戻レリ其間ニコセンヤ突

然此島ニ上陸シ置キニ和蘭人ノ一城ニ攻メ寄
セタル故ニ蘭人備ヘヲナスノ暇ナク余儀ナク
城ヲ明ケ渡セリ其後蘭人大ニ勇ヲ奮フテ戦ヒ
シガ遂ニ一千六百六十二年ニゼーランド城ヲ
明ケ渡シバタビヤニ向テ退去セリ此後コセン
ヤ此島ノ主トナリ新々ニ府ヲ建テ之レヲ臺灣
府ト曰フ而メゼーランド城ヲ以テ彼レノ居城
トナシ之レヲアインシヒント呼ヘリ然ルニ其
後コセンヤ死シ其子チンキンメイ嗣立テ父
志ニ繼キ一千六百七十四年及八年ニ支那ニ攻

メ入りタリ一千六百八十一年チンキンメイ死
シ其嗣子年尚幼ナルヲ以テ臺灣ニ攻メ來リタ
ル清軍ニ敵シ難ク遂ニ生擒セラレタリ然レ共
清帝彼レヲ公爵ニ封シ而メ彼レノ領地ヲ支那
ニ合シ福建ノ屬部トナセリ
臺灣ヲ分ツテ四部トナシ各令アリテ之ヲ治ス
而メ海軍政ニテハ之ヲ五部ニ分ツ其第五部ハ
即チペスカードル群島ヲ以テ一部ト成スナリ
臺灣島ハ土地膏腴ニメ草木暢茂ニ農業ニ宜シ
小人酒ヲ好シ血ヲ吸フハ蓋シ其性ナリ多クハ

縣体ニテ禮ヲ知レ者ナシ米穀夥多ニ生ジ支那
ニ輸入ス而シテ此地ノ收納ハ一年ニ唯一度ナリ
斯クノ如ク地ハ豊饒ナレ共支那ニ於テハ兵備
ノ多キヲ以テ其得ル所其費ス所ヲ償ハズ
臺灣土人ニハ數種族アリ其ノ無知兇暴ノ種族
ハ臺灣府ノ近傍ニ居ル者黑盤灣近傍ニ居ル者
ツー才灣近傍ニ居ル者ナリ此等ハ皆身本巨大
容貌猙獰ニシテ頗ル膂力アリ常ニ獸皮ヲ衣トス
其婦女モ獸皮ヲ衣トシ脚ノ下部ヲ青キ木綿ニ
テ巻ク是レ男子ト異ナル而已其酋長ハ帽子ニ

鷲羽ヲ付ケルヲ以テ庶人ト分ツ可シ而シテ草木
ニ以テ家居ヲ作り年曆ナシ故ニ土人已レノ年
ヲ知ル昔ナシ農夏ハ唯氏ヲ種エル而已此地群
草茂生シ高キ一十尺ニ及ブモノアリテ山ヲ覆
フ大木ハ多ク山頂ニアリ
樟ノ高山ニ繁茂シ而シテ其生スル山ハ多クハ土
人ノ領スル地ニアリ支那人ハ唯其山ニ登ルヲ
得ル而已樟香ヲ欲スル者ハ其酋長ニ物ヲ贈リ
其許可ヲ得テ此樹ヲ伐ルヲ得其最上ノ部分建
築材トナシ其餘ヲ鉄釜ニテ煮テ樟香ヲ得之レ

三
一
マ
ナ
性
ノ
病
ニ
用
フ

菌
鑑
譯

